

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-048839

(43)Date of publication of application : 18.02.2000

(51)Int.CI.

H01M 8/04
H01M 8/10

(21)Application number : 10-210950

(71)Applicant : SANYO ELECTRIC CO LTD

(22)Date of filing : 27.07.1998

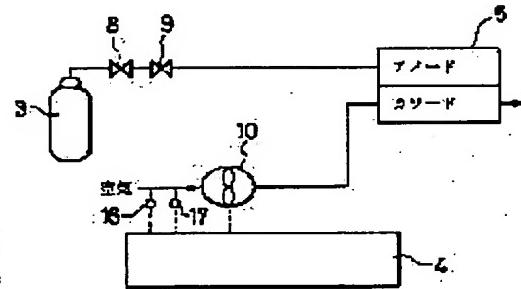
(72)Inventor : TAJIMA KAZUHIRO

(54) CONTROL METHOD OF FUEL CELL DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To avoid instability of a system such as an increase in an unreacted hydrogen gas quantity by a change in the arranging position and the meteorological conditions and lack of a power generation quantity and reduction in power generation efficiency by measuring an outside air temperature, and correcting the intake air quantity on the basis of this.

SOLUTION: Atmospheric temperature/atmospheric pressure measuring sensors 16, 17 are juxtaposed in a reaction air intake port, and a rotating speed of an air blowing fan 10 under a standard condition is corrected by the ratio of this measured value, 0° C and a standard condition of one atmospheric pressure for controlling the rotating speed of the air blowing fan 10. Thus, since the rotating speed of the air blowing fan 10 is increased at high atmospheric temperature and small air density time and the rotating speed is reduced at low atmospheric temperature and high air density time, oxygen quantity which is optimum for fuel gas supplied to an anode of a fuel cell 5 is taken in from the outside to be supplied to a cathode of the fuel cell 5. Thus, even if the arranging place of a fuel cell device and the atmospheric phenomenon change, a proper quantity of oxygen can be always supplied to the fuel cell 5.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開 2000-48839

(P 2000-48839 A)

(43) 公開日 平成12年2月18日(2000.2.18)

(51) Int. C.I.⁷

H 01 M 8/04
 8/10

識別記号

F I

H 01 M 8/04
 8/10

J 5H026
 5H027

テマコト(参考)

審査請求 未請求 請求項の数 2

OL

(全4頁)

(21) 出願番号 特願平10-210950

(22) 出願日 平成10年7月27日(1998.7.27)

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 田島 一弘

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三洋
電機株式会社内

(74) 代理人 100062225

弁理士 秋元 輝雄

F ターム(参考) 5H026 AA06

5H027 AA06 BA13 CC06 KK25 KK41

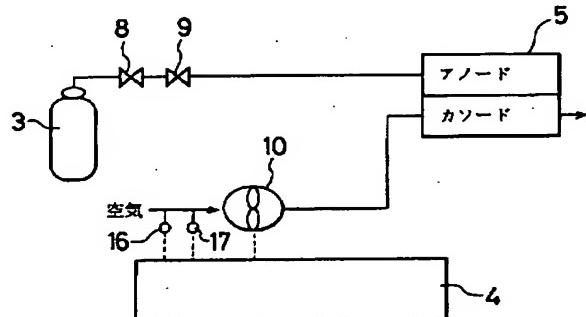
KK52 MM04

(54) 【発明の名称】燃料電池装置の制御方法

(57) 【要約】

【課題】 設置する場所や気象条件に拘らず常に正常な状態で発電できるようにする。

【解決手段】 燃料電池5のアノード極に供給されている燃料ガス流量に応じた酸素量、具体的には送風ファン10の回転数を求めるに際し、先ず標準条件、すなわち101.325 kPa(1気圧)、273.15K(0°C)での送風ファン10の回転数N₀を、制御装置4のメモリ部などに記憶してある燃料ガス供給量Q1ー所要酸素供給量Q2関係式などに基づいて算出し、統いて、温度センサ16と圧力センサ17とが計測している現時点の気圧A(kPa)と温度T(K)に基づいて、送風ファン10の実際の回転数Nを、N₀ × (101.325 ÷ A) × (T ÷ 273.15)として求め、この回転数で送風ファン10を回転させるようにした。



2

剤に燃料電池の運転温度（常温～100℃程度）近傍相当の飽和水蒸気を含ませて、すなわち加湿して燃料および酸化剤を電極接合体0.6に供給し、膜の保水状態を保つようにしている。また、燃料電池は運転中に発熱するので、図示しない手段によって冷却される。

【0007】一方、アルカリ型燃料電池の場合は、電解質中を水酸イオンが移動してアノード極上で燃料ガス（水素ガス）と反応して水を生成する。この生成水はアノード極より残存燃料ガスに搬送されて燃料電池の外部に排出される。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】上記構成の燃料電池においては、供給される燃料ガスの量が負荷に応じて変化し、同時に酸化剤として供給する空気の量も送風ファンの回転数を制御するなどして、常に適正な量の酸素が送られるようになっている。

【0009】しかし、発電部に供給する空気の温度が変わると送風ファンを同一回転数で回転させても空気の密度が変わっているので、発電部に供給される酸素の量に過不足が生じ、未反応水素量が増加したり、発電量が不足するなどして、発電システムとしての安定性および発電効率が低下すると云った問題点があった。

【0010】すなわち、気温に大きな変動があったとしても常に正常な状態で発電できるようにする必要があり、これが解決すべき課題であった。

【0011】

【課題を解決するための手段】本発明は上記した従来技術の課題を解決するためになされたものであって、燃料ガスの供給源から供給された燃料ガスと、外部から取り込んだ空気とを用いて発電を行う燃料電池装置において、燃料ガスの供給量または発電量に基づいて外部から取り込む空気の量を制御すると共に、外部から取り込んだ空気あるいは外部の空気の温度（以下、気温と云う）を計測し、この計測した気温に基づいて外部から取り込む空気の量を補正するようにした第1の構成の燃料電池装置の制御方法と、

【0012】前記第1の構成の燃料電池装置の制御方法において、気温がTKであるときには、標準気温CKであるときに取り込む空気の量にT/Cを乗算して与えられる量に相当する量の空気を取り込むようにした第2の構成の燃料電池装置の制御方法とを提供するものである。

【0013】

【発明の実施の形態】本発明の一実施形態を、図面に基づいて説明する。燃料電池装置1においては、ケース2の内部に燃料ガスボンベ3が起立状態で収納されている。ケース2の後部の上段には図示しない二次電池やDC/DCコンバータなどを備えた制御装置4などが収納されており、中段には燃料の水素と酸化剤としての空気が供給されて電気化学反応させることにより発電する燃

【特許請求の範囲】

【請求項1】 燃料ガスの供給源から供給された燃料ガスと、外部から取り込んだ空気とを用いて発電を行う燃料電池装置において、燃料ガスの供給量または発電量に基づいて外部から取り込む空気の量を制御すると共に、外部から取り込んだ空気あるいは外部の空気の温度（以下、気温と云う）を計測し、この計測した気温に基づいて外部から取り込む空気の量を補正することを特徴とする燃料電池装置の制御方法。

【請求項2】 気温がTKであるときには、標準気温C Kであるときに取り込む空気の量にT/Cを乗算して与えられる量に相当する量の空気を取り込むことを特徴とする請求項1記載の燃料電池装置の制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、燃料電池に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、燃料電池、蓄電池、燃料供給源、制御器などを備え、燃料電池で発生した電力を外部負荷に供給した後の余剰電力を蓄電池に蓄え、燃料電池で発生した電力が不足の場合は蓄電池から電力を補って外部負荷に供給する燃料電池装置が知られており、土木建築工事用電源、家庭用非常電源などとして多くの期待が集められている。

【0003】燃料電池には酸性型燃料電池とアルカリ型燃料電池とがあるが、酸性型燃料電池の1つである固体高分子型燃料電池の構成とその作用を以下に説明する。

【0004】固体高分子型燃料電池は、図4に示すように、電解質0.1に高分子イオン交換膜（例えば、スルホン酸基を持つフッ素樹脂系イオン交換膜）を用い、その両側に触媒電極（例えば、白金など）0.2、0.3および集電体0.4、0.5を備えた電極接合体0.6の構成からなっている。なお、この場合は触媒電極0.2と集電体0.4がアノード極、触媒電極0.3と集電体0.5がカソード極として作用する。

【0005】アノード極側に供給された加湿燃料中の水素は、触媒電極0.2上で水素イオン化され、この水素イオンは電解質0.1中を水の介在のもとH⁺・xH₂Oとしてカソード極側へ水と共に移動する。この移動した水素イオンは、触媒電極0.3上で酸化剤（例えば、空気）中の酸素と、外部回路0.7を通ってきた電子と反応して水を生成する。そして、この生成水は残存酸化剤に搬送されて燃料電池の外に排出され、外部回路0.7を通って流れる電子の流れが、直流の電気エネルギーとして利用される。

【0006】なお、電解質0.1となる高分子イオン交換膜において、前記のような水素イオン透過性を発揮させるためには、この高分子イオン交換膜を常に充分な保水状態に保持しておく必要があり、例えば燃料または酸化

料電池5が収納され、下段にはDC／ACコンバータ6や貯水タンク7などが収納されている。

【0014】燃料ガスボンベ3からレギュレータ8と流量調整弁9を経て燃料電池5のアノード極に供給された水素ガスは、送風ファン10により外部から反応空気取入口11を経て取り入れて燃料電池5のカソード極に送られた空気中の酸素と燃料電池5において前記電気化学反応を行って発電し、発電のために酸素が消費された空気はケース2の外部に排出される。

【0015】なお、燃料電池5はケース2の反応空気取入口11近傍に位置されており、外部からの吸気をスムースに行うことができるようになっている。

【0016】12は送風ファン10が発電の為に外部から取り入れた空気をケース2外に排出するための排気ダクトである。白矢印で示したように流れる高温の空気に含まれる水分(生成水と循環水の一部を含む)が排気ダクト12の内面や邪魔板の表面に結露し、乾燥した空気がケース2の外に排出される。

【0017】分離された水分は矢印で示したように、排気ダクト12に設けた勾配により下部の排水タンク13に集められ、排水管14を介して適宜ケース2外に排出したり、貯水タンク7に戻すことができるよう構成されている。

【0018】15は水ポンプであり、貯水タンク7に溜っている冷却水を燃料電池5に循環供給することができるよう図示しない冷却水管が設けられている。

【0019】そして、反応空気取入口11には気温を計測する温度センサ16と、気圧を計測する圧力センサ17とが並設され、これらセンサが計測する気温Tと気圧Aに基づいて、送風ファン10の回転数が図2のようにして制御される。

【0020】先ず、レギュレータ8によって所定の圧力、例えば5kPaに降圧調整された燃料ガスボンベ3内の燃料ガスが、流量調整弁9によって負荷に応じた所要の流量に制御されて燃料電池5のアノード極に供給される。

【0021】そして、燃料電池5のアノード極に供給されている燃料ガス流量または発電量に応じた酸素量、具体的には送風ファン10の回転数が算出される。その場合、標準条件、すなわち101.325kPa(1気圧)、273.15K(0℃)での送風ファン10の回転数N₀が、制御装置4の図示しないメモリ部などに記憶してある、例えば図3に示したような燃料ガス供給量Q1—所要酸素供給量Q2関係式などに基づいて先ず算出される。

【0022】続いて、温度センサ16と圧力センサ17とが計測している現時点の気圧A(kPa)と温度T(K)とに基づいて、送風ファン10の実際の回転数Nを、 $N_0 \times (101.325 \div A) \times (T \div 273.15)$ として求め、この回転数で送風ファン10が回転さ

せられる。

【0023】上記のように送風ファン10の回転が制御されるので、直接的な気圧変動は勿論、気温が高くしたがって空気の密度が小さくなっているときには、その低密度を考慮して送風ファン10の回転数が増え、気温が低くしたがって空気の密度が大きくなっているときには、その高密度を考慮して送風ファン10の回転数が下がるので、燃料電池5のアノード極に供給される燃料ガスに最適な量の酸素が、外部から取り込まれて燃料電池

5のカソード極に供給される。

【0024】したがって、燃料電池装置1の設置場所や気象の変動に拘らず、燃料電池5に供給される酸素の量に過不足が生じて、未反応水素ガスの量が増加したり、発電量が不足するなどの、発電システムとしての安定性や発電効率が低下すると云った不都合が起こることはなく、常に正常な状態で発電できるようになった。

【0025】なお、本発明は上記実施形態に限定されるものではないので、特許請求の範囲に記載の趣旨から逸脱しない範囲で各種の変形実施が可能である。

【0026】例えば、送風ファン10と燃料電池5との間にダンパーを設け、このダンパーの開度を気圧Aと気温Tに基づいて調整し、燃料電池5に供給する空気の量を制御することも可能である。

【0027】また、温度センサ16と圧力センサ17とは、送風ファン10と燃料電池5との間に設けるように構成することも可能である。

【0028】また、ケース2内に収納されているため、温度センサ16が計測する気温T、すなわち外気の温度ほどは温度が変化しない燃料ガスボンベ3内の燃料ガスの燃料電池5への供給も、その温度を計測して温度が高いときには多く、温度が低い時には少なく燃料電池5に供給するように構成することも可能である。

【0029】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、燃料電池装置の設置位置や気象条件の変動に拘らず、適正な量の空気が発電部に供給されるので、未反応水素ガスの量が増加したり、発電量が不足するなどのシステムとしての安定性や発電効率が低下すると云った不都合が起こることはなく、常に正常な状態で発電できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】燃料電池装置の要部の説明図である。

【図2】制御の流れを示す説明図である。

【図3】所要酸素供給量を求めるための説明図である。

【図4】固体高分子型燃料電池の構成を示す説明図である。

【図5】燃料電池装置の説明図である。

【符号の説明】

1 燃料電池装置

2 ケース

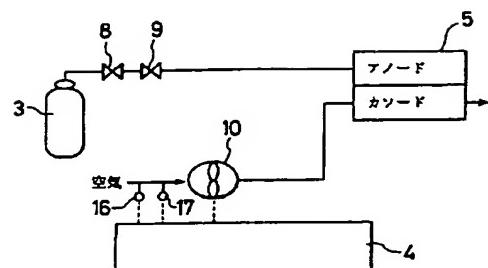
3 燃料ガスボンベ

50

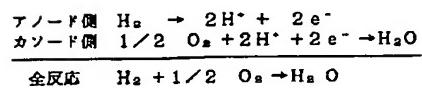
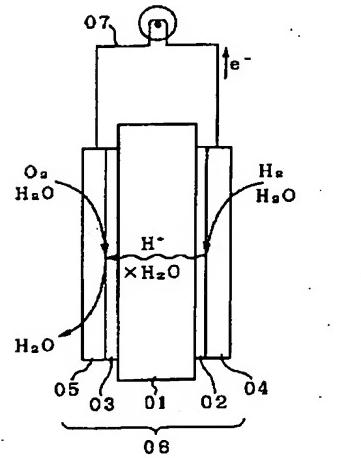
- 4 制御装置
5 燃料電池
8 レギュレータ
9 流量調整弁

- 10 送風ファン
11 反応空気取入口
16 温度センサ
17 圧力センサ

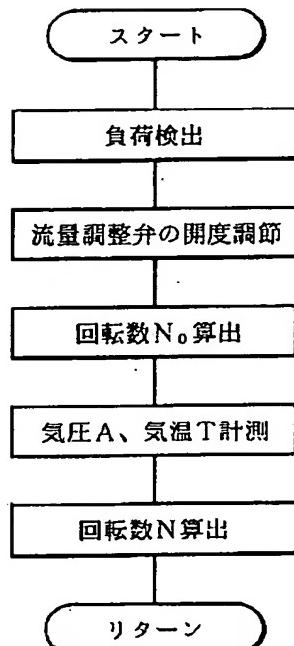
【図1】



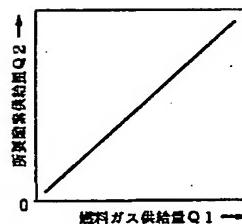
【図4】



【図2】



【図3】



【図5】

